# 聴かせてください！あなたの家の防災対策

平成23年3月11日、午後2時46分に発生し、未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」から、丸6年が経過します。この間、癒えきらない痛みを誰もが抱えながら、それぞれが目指す復旧・復興に向けて、着実に歩みを積み重ねてきました。

しかし、皆さんは、あれほど頻繁に発生していた余震がひところよりも落ち着いたことで、地震に対する警戒心が弱まっていませんか。千年に一度の巨大地震は、しばらく起きないだろうと考えていませんか。何より防災意識が、少しずつ薄らいでいませんか。

昨年4月に発生した「熊本地震」では、ほとんど前触れもなく、マグニチュード6・5、最大震度7の振れが発生しました。また、震度5強以上の地震は、昨年、全国で16回発生しています。これらは決して対岸の火事ではなく、わたしたちには、地震が起きることを前提に暮らすことが常に求められています。

家具などの落下・転倒防止、火災やけがなど2次被害の防止、安否の連絡方法、避難所や避難経路の確認、非常持出品や非常備蓄品の準備など、備えあれば憂いなしです。皆さんもう一度、防災対策を見直してみましょう。

## 地域一体の防災力

寺岡 清光さん
（三本木地域）

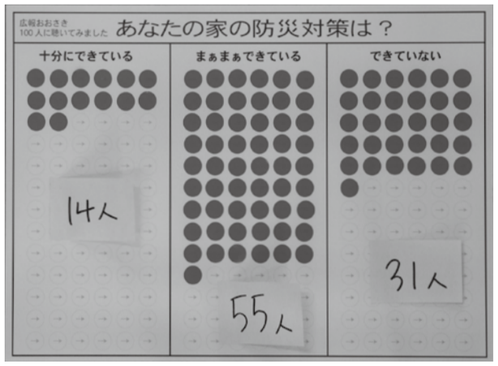
ひとり暮らし世帯など、近所に暮らす人の事情を知るほか、避難経路で注意したい場所の確認など、地域一体で防災意識を高めています。震災時、地域の絆の大切さを痛感しました。地域住民のつながりが、有事の際に助け合いを生むと思います。

## 停電時の情報収集手段

阿部 真莉奈さん
（古川地域）

震災の時、自宅に発電機があったことで、停電中でも、全国の情報をテレビから得ることができました。携帯電話の充電にも活用でき、家族や友人との連絡手段やさまざまな情報の収集にも役立ちました。今でも、発電機を使用できる状態に保管しています。

## 防災対策 十分にできていますか




市役所を訪れた100人に自宅の防災対策について聞いてみたところ、十分にできている14人、まぁまぁできている55人、できていない31人という結果になりました。東日本大震災以降、多くの人が何らかの防災対策に取り組んでいるようですが、時の経過は少しずつ痛みを忘れさせます。もう一度、自宅の防災対策を家族みんなで見直してみましょう。



## 自宅の耐震補強

畑中 匡さん
（鹿島台地域）

市の補助金を利用して、自宅の耐震補強を施した矢先の震災でした。宮城県沖地震に備えてたことで、家屋被害は物が落ちる程度で済みました。物流が途絶えると、衣食住すべてが麻痺するので、普段からしっかりと備えて安心に暮らしたいです。

## 連絡手段の確保

村上 哲也さん
（古川地域）

震災時は、電気が使えず苦労したので、ガスや電池で利用できる暖房機や調理器具を備えています。また、災害時、連絡が取れなくても家族の居場所が互いに分かるように、伝言を書き残せるホワイトボードを玄関に置いて活用しています。

## 保管場所の分散

武藤 貞子さん
（松山地域）

震災では、家族が医療機関を利用できず不安を抱きました。看病を必要とする家族のためにも、自宅はもちろん、車の中にも食べ物や防寒着を用意しています。通院できない状況でも、自分たちで対応できる範囲の準備を意識しています。

## 身近な心掛け

岩谷 恵美さん
（岩出山地域）

生活用水確保のため、お風呂の水は落とさないようにしています。ガソリンも半分になったら給油を心掛けるようになりました。震災直後は、炭で火を起こし、飯ごうで煮炊きするなどキャンプ用品が役立ちました。今も炭は常備するようにしています。

## 他者への思いやり

早坂 明子さん
（古川地域）

卓上コンロや保存食を準備しています。自転車も定期的に点検するようになりました。あの混乱から得た教訓は、困っているのは自分だけじゃないということ。自分ひとりじゃなく、他者を思って行動することの大切さです。

## 助け合いの心

遠藤 良三さん
（鳴子温泉地域）

意識的に高い所には物を置かないようにしています。背の高い家具もなるべく置かないようにしています。震災を経験して特に思うのは、人と人のつながりの大切さ。あの時は多くの人を助け、多くの人に助けられました。

## 断水の備え

髙橋 澄夫さん
（松山地域）

家具が転倒しないよう、しっかりと固定しています。震災後、普段通りの生活ができず困りましたが、特に大変だったのが水の確保でした。あれから6年、飲料水を防災用に用意し、給水時に困らないようにポリタンクや空の入れ物も常備しています。

## 保存食の常備

佐々木 きわ子さん
（田尻地域）

6年前の震災では、電気や水道など生活の基本となるものは滞りましたが、自宅が農家ということもあり、食料や燃料は、ある程度の確保はできました。あれから、冷凍食品は多めにストックするよう心掛けています。